〔萬葉集一雜歌〕天皇○天智遊獵蒲生野時額田王作歌

茜草指武良前野逝標野行野守者不見哉君之袖布流

皇太子答御歌　明日香宮御宇天皇○天武

紫草能爾保敝類妹乎爾苦久有者人嬬故爾吾戀目八方

〔古今和歌集二十大歌所御歌〕あふみぶり

あふみよりあさたちくればうねのゝにたづぞ鳴くなる明ぬこのよは

〔萬葉集十四東歌〕信濃奈流須我能安良能爾保登等藝須奈久許惠伎氣婆登伎須疑爾家里

〔宗祇終焉記〕信濃路にかゝり、ちくま川の石ふみわたり、菅のあら野をしのぎて、廿六日といふに草津といふ所につきぬ、

〔書言字考節用集一乾坤〕那須野野州那須郡

〔諸州奇跡談乾〕下野國

郡須野が原七里四方ありと云、昔は廻り百二十里有と、村老の語りつたひしと云、古しへの十里は、今の壹里ばかりに當ればかくいふなるべし、

〔奥の細道〕那須の黒ばねと云ふ所に知人あれば、是より野越にかゝりて、直道を行かんとす、遙かに一村を見かけて行くに、雨ふり日暮る、農夫の家に一夜をかりて、明くれば又野中をゆく、そこに野飼の馬あり、草刈をのこになげきよれば、野夫といへどもさすがに情しらぬにはあらず、いかゞすべきや、されども此の野は縱横にわかれて、うひ〳〵しき旅人の道ふみたよらん、あやしう侍れば、此馬の止まる所にて、馬を返し給へとかし侍りぬ、

〔東遊雜記一〕那須野の原にて圖アレドモ略ス殺生石の事は、世に怪說數多あり、○中略土人數人を近付、且大田原侯より出し給ふ役人の宅に至り、殺生石の事を委しく尋聞しに、慶長元和の頃迄は、那須

信濃國菅荒野

下野國那須野